

ASO-KUJU National Park

阿蘇くじゅう国立公園

National
Parks
of Japan



www.env.go.jp/park/aso

地球シアター「阿蘇くじゅう国立公園」で、
火山が創り出したさまざまな奇跡の物語を体験してください。
そしてあなたの心の中に、
忘れられない感動の記憶を刻んで下さい。

地球シアターへようこそ。

What a wonderful world

この素晴らしい世界

雄大な自然が広がっていた。

優しく穏やかな人々が豊かな暮らしを営んでいた。

この地へ立てば、君が今まで火山に対して抱いていたイメージは、きっと大きく変わるだろう。

この地にもたらした奇跡を見れば、君の心は感動に強く震えるだろう。

火山は恵みの山なのだ。

数々の湧水や温泉、美しい草原や山々、独自の暮らしや文化。

ここには、火山が創り出した素晴らしい世界がある。

米塚

阿蘇くじゅう国立公園は九州の中央、熊本・大分両県にまたがる国立公園で総面積726.78平方キロメートル。公園の南部に位置する阿蘇地区では9世紀頃にはすでに噴火口を神霊池と見立てた火山神崇拝が行われており、伝統的な文化を色濃く残したエリア。その北東部に隣接するくじゅう地区の諸火山、さらに別府湾を望む位置にある由布・鶴見火山群は、季節ごとの花々や紅葉を楽しむ人々に人気の高いエリアである。



Night and day

夜も昼も

噴煙をあげる阿蘇中岳火口

火山
volcano



左上／火口に溜まった水の色はマグマの成分が溶けだしてエメラルドグリーンに。左下／くじゅう黒岳の火山灰土の上に広がる原生林。美しい紅葉が有名。右上／坊ガツルにある秘湯、法華院温泉。徒歩でしか行くことができない。



君の瞳と同じ深いエメラルドグリーンの液体が、火口の底でブクブクと沸き立っていた。
白い噴煙はまっ青な空をゆっくりと登り、はるか上に浮かぶ雲に溶け込んでいった。
火山は地球の生命の証だ。
夜も昼も、今日も明日も、今年も百万年先も、地の奥底から太い唸り声は聞こえてくるだろう。
人間が消えてしまった後も、ずっと。

阿蘇山は、南北約25km、東西約18kmに及ぶ巨大なカルデラの中にそびえている中央火口丘や周辺の火口原、外輪山によって構成されている。噴煙は中央火口丘の中岳の火口から上がっていて、活動が穏やかなときは火口の縁から内部を見ることができる。くじゅう連山は、溶岩ドームを中心に形成された火山群。まわりには火山灰などがつくった雄大な火山性高原が広がっていて、ゴツゴツと変化に富んだ風景と穏やかな草原の風景を同時に楽しむことができる。



標高1,700m級の火山が群立しているくじゅう連山。西側には久住山系の山々が連なり、坊ガツル湿原をはさんだ東側の対面に大船山を中心とする大船山系の山々が並ぶ。もともと多くの登山客を集めの人気のスポットだが、特にミヤマキリシマの咲く初夏と錦絵のような紅葉が見事な秋は、登山客と観光客が全国から押し寄せる。やまなみハイウェイ沿線にある長者原や牧ノ戸峠を始め、登山口はくじゅう連山周辺に数多く点在する。



黒岳の原生林

夜明け前の草原の真っ只中に立って、消えゆく星を眺めていた。
昇り始めた太陽の光に照らされて、
阿蘇やくじゅうの山々の稜線がくっきりと見えてくる。
夜の間は音もなく静かに佇んでいたススキたちは、
早起きの風の爽やかな歌に合わせてゆっくり踊りだす。
この草原は命のゆりかご。
花や動物たちを育て、護り、美しい水を作る。
この草原は、火山と人間によって維持されてきた遙か過去からの贈りもの。
揺れるススキたちに誘われて、いつの間にか私も踊りだしていた。

阿蘇山やくじゅう連山のまわりには、火山灰などによってできた火山性高原が広がっている。高原は長い間、採草、春に行われる野焼き、放牧など人の手によって樹林化が抑えられ、草原の状態で安定的に維持されている。樹林化が抑えられた結果、この一帯にはヒゴタイ、キスマレ、エヒメアヤメなどの希少植物が多く残され、大変重要な育成地となっている。



上／阿蘇やくじゅうの草原ではホーストレッキングを楽しむことができる。
下／自転車で草原を走れば、阿蘇外輪山やくじゅう連山の雄大な風景を堪能できる。

Softly, as in a morning sunrise

朝日のごとく爽やかに

草原
grand
grassland



くじゅう黒岳山麓の男池

涌
水

spring

Aqua de beber

おいしい水

阿蘇山やくじゅう連山のまわりには、無数の湧水地が点在している。カルデラ内の阿蘇谷と南郷谷、久住山南麓、竹田市周辺及び小国町周辺などの地域が湧水の密度が高くなっている。また、阿蘇外輪山の南、西、北側の山腹にも何ヶ所か湧水が見られる。湧水は山に降った雨や雪が一旦地下水になり、火山灰などの堆積した地中で濾過されて、地表に湧いて出てくるものであり、阿蘇くじゅうの豊かな動植物の命や人々の暮らしを支えている。



左上／南阿蘇の竹崎水源。湧水量は毎分約120トン。左下／鍋ヶ滝は滝の裏側にまわりこむことができる。右上／阿蘇くじゅうのほとんどの湧き水はそのまま飲むことができる。

広葉樹の森の、柔らかな木漏れ日の小径を歩く。
そよ風に揺れる葉音や小鳥たちのさえずりの間から、
さーっという水の音が聞こえてくる。
この森には深い碧色の池がある。
火山に濾過された美しい水が湧いてくる湧水の池だ。
池の底から絶え間なく湧いてくる水は、せせらぎとなり、
いつまでもこの森を優しく護り続けるのだろう。



Feels like home

故郷にいるみたいに

私たちの祖先は、ときに厳しい自然の振る舞いに抗うことなく、
ともに生きる道を選び続けてきたのだと、
温泉宿の女将が囲炉裏で田楽を焼きながら教えてくれた。
まるで故郷にいるみたいに、ゆったりとした気分になれるのは、
何千年も前からこの地に存在している
独特の文化のせいなのかもしれない。
時間がゆっくりと流れ、人々が穏やかで、
豊かな暮らしはここにはある。

黒川温泉の冬の風物詩「湯あかり」

風土

この地の人々は火山とともに生きている。過去に幾度も起こった厳しい自然の振る舞いに耐えながらも、この地の特性を活かしながら、阿蘇くじゅうならではの文化を生み、育ててきた。湧水池から汲んだ良質の水や地熱を利用して料理を作り、温泉で心身を癒やし、草原で牛や馬を育て、山では山菜を摘み、川では川魚を捕らえる、そんな穏やかで豊かな暮らしが昔から変わることなく続いている。大自然と人が織りなすおおらかでゆったりとした阿蘇くじゅうの暮らしには、訪れるものの心を解きほぐす特別な力がある。



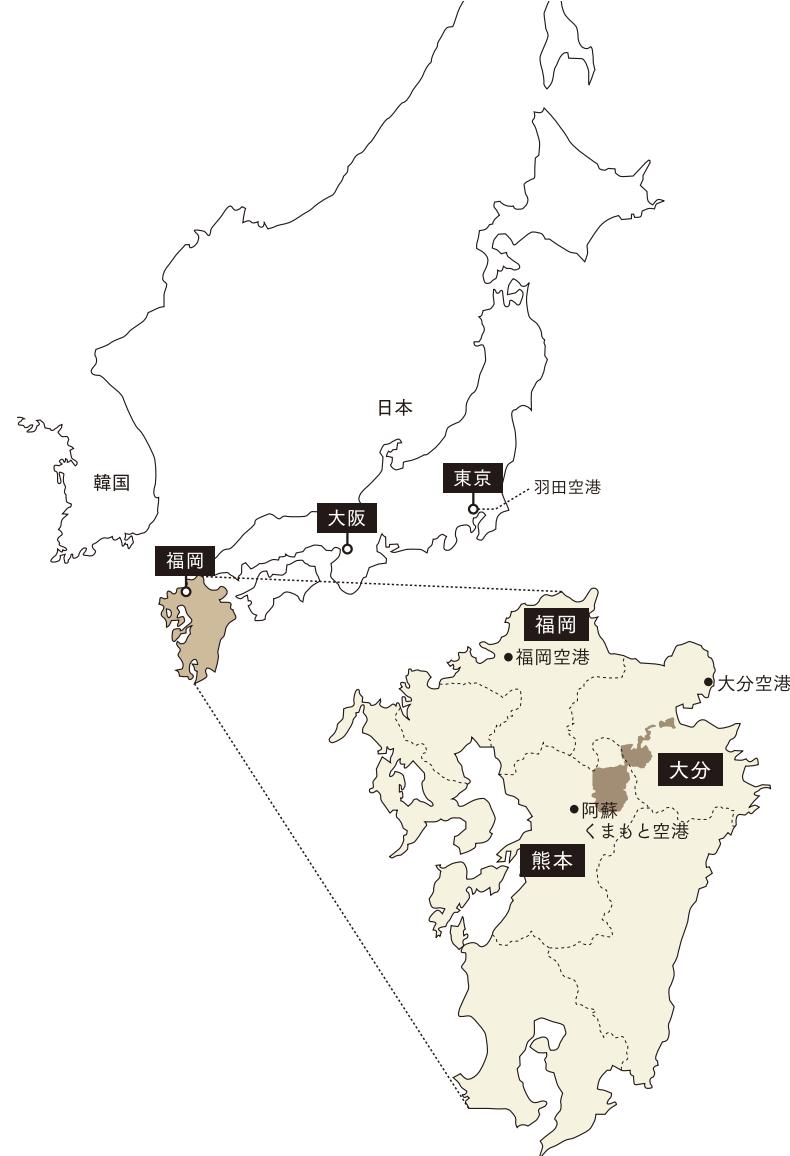
左上／阿蘇の草原はあく牛や黒毛和牛、馬などの放牧地として利用されている。右上／芋やヤマメ、山菜などを、味噌で味付けし、囲炉裏を囲んで炭火で焼く素朴な郷土料理「田楽」。左中／鉄輪温泉の名物「地獄蒸し」。地熱を使って野菜や魚介類を調理する。右中／鉄輪温泉は古くから多くの人々に愛されてきた湯治場。小規模な湯治宿が建ち並ぶレトロで情緒豊かな町並みが特長。左下／川沿いに野菜の洗い場と露天風呂が隣接する満願寺温泉の露天風呂。昔からの風習がそのまま現代に残っている。右下／阿蘇の郷土料理『だご汁』。小麦粉と水を合わせてこね、のばして帯状に切った「だご」と野菜がたっぷりと入った味噌風味の汁料理。

四季

春はミヤマキリシマ、秋は美しい紅葉に、冬は雪に彩られた阿蘇くじゅう国立公園。その素晴らしい風景に魅せられて、多くの観光客や登山客が訪れる。ここは火山によってもたらされた独特の風景、花や動物、文化の宝庫。ゴツゴツとした迫力ある景観、人の手によって樹林化が抑えられ、美しい草原のまま保たれている雄大な火山性高原。その草原には、ヒゴタイ、キスミレ、エヒメアヤメなどの希少植物が生息している。阿蘇地方には火を振り回して豊作を祈る火振り神事など、ユニークな風習が昔からそのままの形で伝わっている。



左上／8月から9月にかけて、瑠璃色の小さな花が球状にかたまって咲くヒゴタイ。タデ原湿原などで見られる希少種。右上／春になると草原で一斉に行われる野焼き。草原が樹林へ変わらないよう千年以上昔から行われている。左中／5月下旬から6月中旬にかけて、阿蘇やくじゅうの火山を一面ピンクに染めるミヤマキリシマ。右中／大分県別府の鶴見岳の山頂では、温かい九州ではめずらしく霧氷を見る事ができる。山頂へはロープウェイが利用できる。左下／松明に縄をつけ、火をつけて振り回す阿蘇神社の伝統的な祭り、火振り神事。右下／阿蘇くじゅうは有名な紅葉スポット。秋には山肌が燃えるような赤や黄に彩られ、高原にはスキーの穂が黄金色に輝く。



交通アクセス

羽田空港▶[飛行機(約1時間50分)]▶ 大分空港▶[バス(約1時間)]▶ JR由布院駅(由布院駅前バスセンター)▶
▶[バス(約50分)]▶ くじゅう登山口(長者原) ※長者原ビジャーセンター最寄りバス停

羽田空港▶[飛行機(約2時間)]▶ 福岡空港▶[バス(約2時間30分)]▶ JR由布院駅(由布院駅前バスセンター)▶
[バス(約52分)]▶ くじゅう登山口(長者原)

羽田空港▶[飛行機(約2時間)]▶ 阿蘇くまもと空港▶[バス(約45分)]▶ 道の駅阿蘇駅

※アクセスルートは一例です。詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどでご確認ください。各区間の所要時間は目安です。

問い合わせ先

長者原ビジャーセンター(くじゅう方面)

〒879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
tel 0973-79-2154 url <http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/>

ASO田園空間博物館(阿蘇方面)

〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川1440-1
tel 0967-35-5077 url <http://www.aso-denku.jp/>